

資料館だより

CONTENTS

- 1 … TOPICS
- 2 … 展示活動報告
- 3 … 資料館での雑感／研究会・講演活動報告／平成25年6月～11月移管・寄贈資料
- 4 … 開催案内／資料館業務日誌／平成25年度入館者

TOPICS

資料館特別講演会「明治以降における近代科学移入と四高由来実験機器群」を開催

— 旧制四高物理実験機器コレクションの歴史的価値について講演 —



四高由来実験機器群について解説する永平教授

平成25年度 金沢大学資料館特別講演会

「明治以降における近代科学移入と四高由来実験機器群」

大阪経済法科大学教授
永平 幸雄 氏

日時 10/25(金)
午後2時45分～4時15分
入場無料

場所 金沢大学
附属中央図書館
3階 AV室

資料館特別講演会チラシ

資料館では、10月25日、金沢大学附属図書館(中央図書館3階AV室)で、永平幸雄大阪経済法科大学教授を講師にお招きし、特別講演会「明治以降における近代科学移入と四高由来実験機器群」を開催しました。

この講演会は、平成25年度資料館特別展「二十年目の邂逅—泣き別れになった四高物理実験機器—」の開催に合わせ企画したものです(P2に関連記事)。

永平教授からは、四高物理実験機器の歴史的価値について、最新の研究成果を踏まえて講演いただきました。

会場には、約40名の方々が集まりました。

中村学長が特別展を見学。永平教授(特別講演会講師)が解説

特別講演会に先立つ10月25日昼休みに、中村学長が特別展を見学されました。永平教授も同行され、展示品等について詳しく解説されました。

マックス・コール社製「クルックス氏管」(本資料館蔵)について説明をする永平教授(中央)と説明に耳を傾ける中村学長(右)



展示活動報告

特別展

二十年目の邂逅 一泣き別れになった四高物理実験機器一

会期 平成25年10月17日～平成25年11月22日 会場 金沢大学資料館展示室



特別展チラシ

四高の物理実験機器は、現存する旧制高校物理実験機器コレクション中最大のもので、これらの機器は四高から金沢大学に伝えられ使用されてきましたが、平成5(1993)年の教養部移転の折に二つにわけられ、現在、金沢大学資料館と石川県立自然史資料館に所蔵されています。

本資料館では、今年(平成25年)が教養部移転から20年目の節目に当たることを記念して、泣き別れになった両コレクションを本来のあるべき姿で合体展示する特別展を開催しました。

特別展では、日本で唯一現存が確認されている明治11(1878)年文部省交付物理実験機器4点、加賀藩の天文学家・遠藤高環(えんどう・たかのり)作の携帯型日時計「し景儀」(弘化3(1846)年)などの特別貴重な資料を含めて、約90点の四高物理実験機器を展示しました。

また、「博物館情報・メディア論」の授業で学生が作成した本特別展宣伝ビデオも、資料館入口で公開しました(学生の作品とは思えない見事な出来栄でした)。



授業(博物館情報・メディア論)で特別展を見学する学生

ミュージアム・ツアーを実施

11月12～15日に、資料館職員が展示品等を解説しながら鑑賞する「ミュージアム・ツアー」を実施しました。4日間で学内外から26人の参加がありました。

資料館長の解説を聴くツアー参加者の皆さん



Hartmut Rotermund フランス国立高等研究院名誉教授、田中隆治星薬科大学長一行が来館

11月7日、Hartmut Rotermund フランス国立高等研究院名誉教授夫妻、田中隆治星薬科大学長の一行が資料館特別展を見学されました。短時間ではありましたが、古畑資料館長の説明に耳を傾け、熱心にご覧になっておられました。

古畑資料館長から、四高物理実験機器の説明を聴くHartmut Rotermund氏夫妻と田中星薬科大学学長一行(展示品は、アネロイド気圧計)



写真展

よみがえる城内キャンパス

会期 平成25年10月25日～平成25年11月7日 会場 金沢城公園鶴の丸休憩所



写真展チラシ

資料館では、今年(平成25年)も、金沢城公園内の鶴の丸休憩室の一角を借りて、懐かしい城内キャンパス(正式には丸の内キャンパス)時代の写真展を開催しました。

本写真展は、毎年「金沢大学ホームカミングディ」の開催日(本年は、11月2日(土)に開催)に併せ実施しているもので、卒業生の皆さんが懐かしい城内で、当時の思い出に浸っていただくことを目的に企画しています。

写真展では、城内キャンパスの風景や学生生活を写した写真などのパネル16点を展示しました。



写真展展示風景

学生から見た資料館



【モノ資料整備事業で整理が進む、四高物理実験機器】

写真は、キルヒホフ・ブンゼン氏分光器(ドイツでおよそ130年前に作られたスペクトルスコープ：光学分野の実験機器)。資料館ではタイプの異なる分光器・分光計を10点以上所蔵している。

山と積まれた箱。中には未整理の資料が詰まっている。果てしない作業。しかし、整理しないことには利用の便が悪いから、整理しなければならない。

資料整理は発見と出会いの連続だ。ある日、私は奇妙な資料に出会った。なにやらゴジラを倒せそうな黄色い何かだ。寄贈品目録を見ると「エアシューターの気送子」だと言う。書類を中に入れ、パイプを通して送るそうだ。目録には気送管配置図も添えられていた。またある時、私はアルバムを整理していた。五十年史編纂に用いられた材料の一つだそうだ。このアルバムの情報を得るために、五十年史とアルバ

ムとを対照して調査した。材料と編纂物をつき合わせる作業は刺激的なものであった。先人が材料をどのように扱ったのか、その足跡を辿る貴重な体験だ。気送子もアルバムも、平素の生活で出会えるものではない。『奈良の都』という本の中で、青木和夫氏は正倉院文書の現物を見た時のことを感動まじりに記している(青木和夫『奈良の都』中央公論社、一九六五年)が、資料との出会いはいつも感動的なものである。資料整理は、最も容易く広汎な知識に触れる場に他ならない。

好奇心の赴くままに生きていては見逃しがちな、専門外の資料、先人の知識。

それらに触れる中で、感じることもある。面白そうだが、私には使い道が分からない資料も、もしかしたらあの友人なら喜んで利用してくれるかもしれない。もしくは他の誰かが使ってくれるかもしれない、と。

資料整理は、知識と出会うのみではない。私が会うこともない誰かと、奇跡的に今日まで姿を残してきた知識とを結ぶ橋渡しでもある。

私が整理した資料が、いつか誰かの役に立って欲しい。心からそう思う。

人間社会学域人文学類(日本史研究室)4年
杉山 侑暉

研究会・講演活動報告

古畑徹資料館長が名古屋大学博物館特別講演会で講演

古畑資料館長が、10月12日(土)、名古屋大学博物館3階講義室で、「第四高等学校旧蔵「キノコムラージュ標本」の再発見とその後の展開」と題して講演しました。同講演会は、名古屋大学博物館第27回企画展「教育標本ムラージュ」(平成25年8月6日から10月19日)で、本資料館所蔵のキノコムラージュ標本17点が展示されたことに関連して企画されました。



古畑資料館長の講演風景
(写真提供：名古屋大学博物館)

平成25年6月～11月
移管・寄贈資料

今期も貴重な資料の数々を移管・寄贈していただきました。当館にて大切に保管し、貴重な資料として活用させていただきます。改めて感謝申し上げます。
(平成25年度第2回資料館委員会(25.11.19開催)承認)

移管

- 私の思い出1 岡本ツル生活史
- 徳田メサオさんから聴いた昔の農作業と用語集
- 喜多愛子さんに聴く炭焼きについての66の質問
- 加賀の国河北郡金浦村若松の荘 若松の歴史と伝説(参考資料 若松字隅絵図面)
- 米ができるまで
- 地域連携推進センター
(金沢大学キャンパスで里山保全活動等を行っている市民ボランティア「角間の里山メイト」が作成したもの)



2008年(第48回)日本歌祭で配布されたパンフレット

寄贈

- スクラップブック15冊(昭和33年4月～平成元年12月)
- 写真アルバム29冊
- アルバムケース
- 四高同窓会及び寮歌に関する資料群(計106点)
- 父の多羅尾光文氏(昭和19年文科甲類卒業)旧蔵の四高関係資料群(北辰詞華集、寮歌集、レコード、CD、手ぬぐい等 計61点)
- 半田勝氏への弔詞(金沢医科大学理学的診療科 平松博 昭和17年8月26日)
- ハンドスペクトロスコープ
- 顕微鏡本体
- 金沢医科大学細菌学教室 実習日誌
- 笠井純一氏(本学教授)
- 故市川定三氏(前東京四高会会長) 藤村延魚氏取次
- 多羅尾庸子氏
- 半田英夫氏
- 和田敬四郎氏(本学名誉教授)
- 中村信一氏(本学学長)



手ぬぐい(四高名入り、柄角あり)



ハンドスペクトロスコープと顕微鏡

開催案内

企画展

19世紀の3D ～ステレオ写真の世界～

会期 平成25年12月11日～平成26年3月20日 会場 金沢大学資料館展示室



1903(明治36)年に購入されたステレオ・スコープ

資料館所蔵のステレオ・スコープ(資料名は「レアリスチック・スコープ」)を中心に、古いカメラも展示し、19世紀から20世紀初頭にかけての写真史とステレオ写真(現在の3D画像)のブームを紹介します。また、資料整理の過程で新たに発見された写真に関する貴重な資料等も展示します。

資料館だより(43号)をお届けできる頃は、本企画展の開催期間中となりますが、ぜひ一度足をお運びください。



企画展チラシ

資料館業務日誌

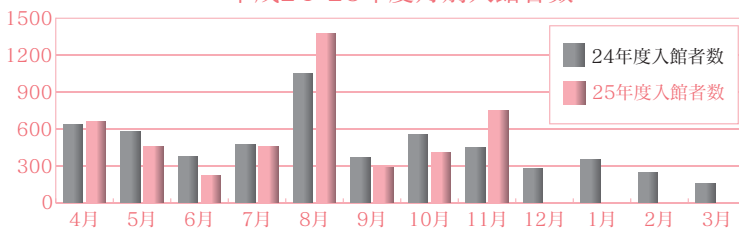
(平成25年8月～11月分)

(7.10)～9.27	企画展「Wall Chart Arts—教育掛図のイメージ—」
8.1	文部科学省中村学生・留学生課留学生交流室政策調査係長来館
8.2	平成25年度第5回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
8.8	ミュージアム・ツアーの実施(オープンキャンパス対応)
8.21	収蔵庫(地下)に書架増設
8.31～9.1	燻蒸作業の実施
9.4	平成25年度第6回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
9.9	文部科学省酒井財務課制度企画プロジェクトチーム係長来館
9.12	「資料館だより(第42号)」発行
9.17	研修会「変わる印刷 広がる書物」参加(富山大学附属図書館)
9.29	講演会「大学アーカイブズ」とこれからの大学」参加(東北大学史料館)
9.30	「金沢大学資料館」(リーフレット)発行
10.1	扁額(「明倫堂」,「経武館」及び「至誠」)置台の補強・修理
10.4	大阪経済法科大学永平教授来館
10.4	熊本大学総務ユニットチームリーダー他1名来館
10.8	平成25年度第7回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
10.12	名古屋大学博物館特別講演会で古畑資料館長が講演
10.17～11.22	特別展「二十年目の邂逅—泣き別れになった四高物理実験機器—」11/2～4(金沢大学ホームカミングディ・金大祭)及び11/9,16臨時開館
10.25～11.7	写真展「よみがえる城内キャンパス」
10.25	学長特別展視察
10.25	資料館特別講演会「明治以降における近代科学移入と四高由来実験機器群」
10.29	セミナー「マイクロフィルムの知られざる特性と情報の保存」参加(パシフィック横浜)
11.6	平成25年度第8回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
11.7	Hartmut Rotermund フランス国立高等研究院名誉教授一行来館
11.8	国立科学博物館産業技術史資料情報センター久米主任調査員来館
11.12～11.15	ミュージアム・ツアーの実施
11.16	静岡大学岩井教授来館(臨時開館)
11.19	平成25年度第2回資料館委員会
11.19	平成25年度第1回紀要編集委員会
11.19	松本市立博物館分館旧制高等学校記念館白井学芸員来館
11.22	「金沢大学資料館紀要(第9号)」論文募集開始

平成25年度入館者

(平成25年4月～11月分)

平成24・25年度月別入館者数



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
24年度	639	577	375	474	1,050	373	552	448	279	356	251	158	5,532
25年度	661	457	224	460	1,379	287	411	749					4,628

お知らせ

- 資料館リーフレットを更新しました。金沢大学資料館ホームページ及び金沢大学学術情報リポジトリKURAで公開しましたので、ぜひ一度ご覧ください。

金沢大学学術情報リポジトリ
KURA

<http://hdl.handle.net/2297/36245>



編集後記

前号(42号)の編集後記は紙面の都合で割愛した。皮肉なことに、今号は紙面の都合で随分なスペースをいただいた(泣&笑。「たかが編集後記。されど編集後記」)。

さて、今期も多くの方々から貴重な資料の数々を移管・寄贈していただいた(P3に関連記事)。

これらの資料群は、資料館で整理の上、機会あるごとに展示・公開しているが、いずれも金沢大学創基150年の歴史と伝統を感じる一級品であり、後世の記念事業や大学史編纂を行う上での重要な基礎資料(証拠)となることは明らかで、貴重な遺産となる。

改めて、この貴重資料を後世に残していかなければならない使命と同時に、資料館事業の大切さを皆さんにどのように周知し、認知してもらうかが重要課題となっている。

人員増も予算増も措置されず、大学博物館・大学文書館として認知されない(=機能を果たせない)資料館は、単なる「物置」と化するしかない。資料館を元気にするのは「今でしょ!」。

(井川俊昭)

金沢大学資料館だより

第43号 平成26年1月20日発行



【発行/編集】 金沢大学資料館

〒920-1192 金沢市角間町
TEL 076-264-5215 FAX 076-234-4050
Mail museum@adm.kanazawa-u.ac.jp

<http://museum.kanazawa-u.ac.jp>